

栗のおはなし

脚本・絵
きやくほん え

金井三加子
かない みかこ

①



②

男の子 「うわー」

今年も見事になったなー。

じいちゃん家の栗！

甘くておいしいねん。

おれ！栗ひろい大好き。

毎年むちゃくちゃ楽しみなんや。

小さい頃からやってるから

なんでも知ってるねんで。

……ぬきながら……

まずは……」



③

男の子

「その1、丈夫なながぐつにはきかえる。
その2、落ちてるイガを見つけたら、
割れてる方を上にむける。

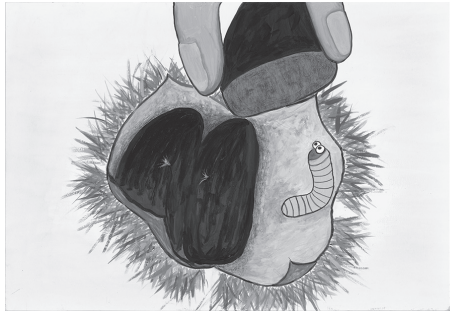
その3、片足で押さえてもう片方で
踏むとずるりときれいにむけるんや。
あ！まうえから踏んだらあかんよ。
栗がつぶれたらたいへんや。

でてきたでてきたピカピカやー！

そしてー！

イガイガに気を付けながら
中の実を取り出す。」

……さつとぬく……



④

男の子 「うわー虫や。」

……間……

ぞつぞつ 「ちよつとー、なに？」

急にあけて！びっくりした！

もー！はやくしめてー！

はやく栗もとにもどしてー！

はやく……

はやくどっか行ってー！」

男の子 「ご……ごめん。」

栗もどします……。」



⑤

男の子

「…ってー、ちよっとまって！

栗もとにもどしてみたもの…

なんで？

なんで？おれ虫に怒られてるん？

おかしいやん。

おれが見つけた栗やで。

いやいやいやー、まって！

それより…

なんで？いもむししゃべってるん？

おかしい…

もう一回あけたろ。」



⑥

男の子 「またまたおじやましますー!」

ぞうむし 「え? なに? また? あけないでよー。

なんの用よ。」

男の子 「…っていうかさあー

これ! おれが見つけた栗なんやけど…。

一方的に”どっかかって”と言われても…。」

ぞうむし 「いやー、わかってないわー。

ぼくの方が先にこの栗にいたんだよ。

わかる?」

男の子 「でもこれじいちゃん家の栗やで?

じいちゃんの栗はおれの栗や!」

ぞうむし 「もーわからず屋だなー。

それにーきみ大きすぎ! 顔こわい!

ちよっとぼくの頭さわってみて。」

男の子 「頭といわれても…

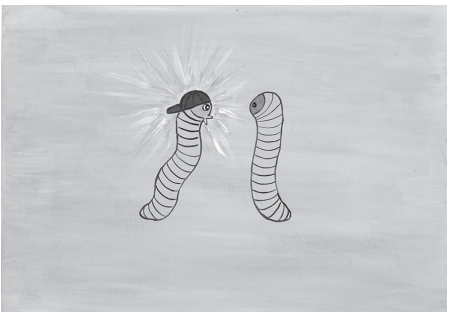
どっちがどっちかわかれへん。」

ぞうむし 「失礼だなー、目ついてるでしょ。」

男の子 「そんな小さい目わからへんわ。」

……ぬきながら……

おれはそっと触れてみた。



⑦

男の子 「うわー！ーなんで？」

「なんで？おれ虫になってるん。」

ぞうむし 「まーまーまー、これで話しやすくなったわ。

ぼくは、ぞうむしの幼虫。

でね、きみがこの栗見つけるずっと前からここに住んでるの…ってどうか、

ぼくはここでうまれたの。」

男の子 「え？ここで？」

ぞうむし 「そう！ぼくらぞうむしの成虫は、イガの上から長い口で穴開けて実の中に卵をうむんだ。だからぼくは実の中でうまれたってわけ。すごいだろ！」

男の子 「うん！知らなかったー。 たまに虫食ってる栗あつたけど、そういうことやったんや。」

ぞうむし 「きみ 栗の実がどうやってできるか知ってる？」

男の子 「そういえば考えもしなかった。教えてくれる？」

ぞうむし 「もちろん！」

……ぬきながら……

ぞうむし 「栗の木の花って見たことある？」



⑧

男の子

「うわーきれい。見たことなかったかも。」

ぞうむし

「雄花おぼなと雌花めばながあって、

白いモフモフしたのが雄花。

雄花の根もとに咲いてるのが雌花。

雌花の先にトゲがあるだろう？

これがイガになるんだ。」

男の子

「ふーん、栗の赤ちゃんってことか。」

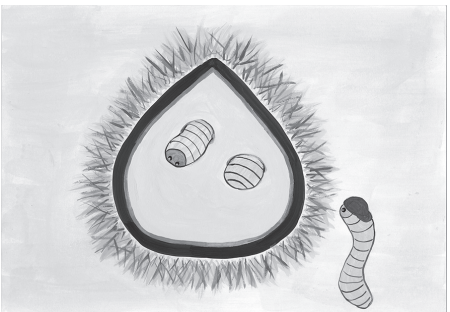
ぞうむし

「そう、これが大きく成長して栗の実になる。」

……ぬきながら……

ぞうむし

「次は栗の実をたてにわってみるよ。」



⑨

ぞうむし 「これが栗の断面図。

はい、ここで質問です。

栗の”皮”ってどこでしょう?」

男の子 「はい、わかります。

食べる時にむくあの固いところですよ。」

ぞうむし 「はい、ちがいます。

栗の”皮”は、1番外側のイガイガです。

きみの言った茶色の鬼皮おにかわは、

実は栗の”実”になります。」

男の子 「えーじゃーおれが実だとおもって

食べてた所は?」

ぞうむし 「それは”種”なんです。」

男の子 「へー知らなかった。おいしく食べてた所は”種”やったんや。びっくり!

それにしてもきみモグモグ

よく食べるなー。」

ぞうむし 「ぼくはしっかり食べて、

土の中で冬を越す準備をしています。

ところできみたち人間は

どうやって栗を食べるの?」



⑩

男の子

「いっぱいあるよ

ゆでて食べるゆで栗とか…

ゆでた栗をつぶして砂糖とまぜて
栗きんとん。甘くて美味しいんや。

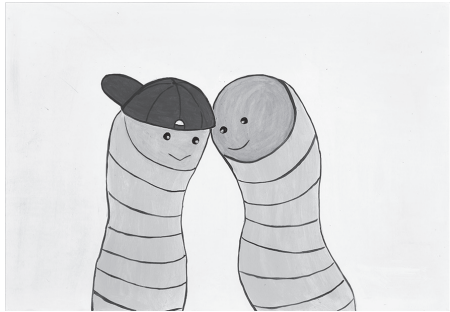
シンプルに焼いて食べる焼き栗…

でもやつぱり…

おれは栗ご飯が1番すきやなー!」

女の子

「ほんとどれもおいしそう!」



⑪

男の子

「おれら栗が大好きなところは
いっしょやったんやな。」

いろいろ教えてくれてありがとう！

知らんこといっぱいあったわ。」

ぞうむし

「ぼくもどっか行って“とか”行ってごめん。」

男の子

「おれらまた会えるかなー。」

ぞうむし

「ぼくは今から土にもぐって冬を越して
夏ごろ成虫になって出てくる。」

きみ！わかるかなー！

成虫になったぼくのこと。」

男の子

「まかしといて！」

おれぞうむしのこと調べる。

ちゃんと勉強しとくから。

また来年の夏に会おうぜ！」

おしまい



⑫